

特別版

愛器を語る

ヤマハ エレクトリック・クラシカル・ギター
CGX122MS/MC 発売記念特別企画

猪居亜美

ヤマハ エレクトリック・クラシカル・ギター
CGX122MC/MS

写真・木田新一
取材協力・ヤマハ銀座店

CGX122MC

CGX122MS

Ami Inoi

これまでにギターを猪居信之、藤井敬吾、福田進一、岩崎慎一、益田展行の各氏に師事し、ピアノ、ソルフェージュを勝間恵子氏に師事。多数の学生・ジュニアコンクールで優勝し、2015年にフォンテックより『Black Star』でデビュー。2019年には3rdアルバム『MEDUSA』でキングレコードよりメジャーデビューを果たす。これまでに『名曲リサイタル』『リサイタル・ノヴァ』『THE TRAD』などの番組や、Panasonic ハイエンド4Kプロジェクター・業務用ディスプレイの高画質・高精細デモコンテンツ【Into the Harmony～新世代のクラシックギタリスト「猪居 亜美」が奏でる世界～】に出演。また、MBS お天気部 2021 年秋のテーマ にマシュー・ロー氏作曲『Promenade～秋晴れ～』でギタリストとして参加。2022年、第39回 GFA 国際ギターコンクールで日本人として35年ぶりとなるファイナリストに選出され、第4位入賞。

——今回はヤマハ エレクトリック・クラシカル・ギター CGX122MC/MS の発売を記念して、昨年のヤマハ サイレントギター発売 20 周年特別企画に引き続き、猪居亜美さんにヤマハ銀座店にご来店頂き、実際に試奏して頂きました。今回発売された楽器は、「クラシックギター奏者向けのエレガット」ということで、ヤマハさんならではの新しいコンセプトのギターだと思います。エレガットはカットウェイが主流ですが、本楽器はノンカットウェイのクラシックギターにピックアップが搭載されています。実際に演奏されてみて、いかがでしたか？

猪居：まず、生音自体が素晴らしいですね。楽器がとても良いうえに、高性能のピックアップが搭載されていて、それで5万円台の価格帯と伺ってとてもビックリしました。また、付属品にネック反り調整用の六角レンチが付いていますが、クラシックギターでトラスロッドが付いているのは初めて見ました。生音でも良く鳴る楽器だと思いますし、機能性も申し分なしです。特にクラシックギターを始めたばかりの方やこれから始めたいという入門者にとって、基本的な条件を兼ね備えた楽器としてお勧めできると思いました。

——先ほど、杉（CGX122MC）と松（CGX122MS）の楽器を生音とアンプそれぞれで試奏されましたが、生でも良く鳴っていましたね。音色も大変魅力的でした。

猪居：松と杉の楽器、それぞれ甲乙つけがたいです。松の方がよりスッキリしたクリアな響きで、杉の方が柔らかい甘い響きがしますね。どちらも、軽く、良く響きます。

——ズバリ、亜美さんはどちらがお好みですか？（笑）

猪居：好みか、と言われたら私は杉でしょうか（笑）。

——アンプから音を出した際の印象はいかがでしたか？

猪居：想像以上にナチュラルな音色でとても心地良かったです。ちょっと聴いただけではアンプから出た音だとわからないほどですね。

——プロギタリストの立場からみて、エレクトリック・クラシカル・ギターにどんな可能性を感じますか？

猪居：実は今回のお話を伺う前から、私自身もエレガットを探していたんです。ですので、今回演奏させて頂いたときに「これだ!」と思いました（笑）。というのは、私自身もアコースティックギタリストやエレキギタリストなど他のジャンルとの方とのコラボやセッションの機会が年々多くなっているのですが、そうした時にどうしても生音やマイクでは限界があります。ですので、エレガットが欲しいと思っていましたが、エレガットはほとんどがカットウェイですので、クラシックギタリストとしてのアイデンティティを主張しにくいという難点がありました。私自身はもとより、これから、クラシックギター業界自体もジャンルの垣根を越えたコラボレーションが求められてくると思いますので、エレクトリック・クラシカル・ギターは力強い武器になり得ると思います。

——外部マイク使用とエレガットではやはり、エレガットが有力ですか？

猪居：ケースにもよります。マイクは愛器の音色を外側から拾って増幅させるわけですが、大きな会場でのソロリサイタルでは性能の良いマイクも良いですが、エレキギターなどの他の楽器とのセッションとなると、エレガットがどうしても必要になりますね。以前、エレキギタリストのマーティ・フリードマンさんとピアソラの《カフェ 1930》を共演させて頂いたことがあるのですが、その時にマイクでどれだけ拾っても厳しいということを実感しまして、エレガットの必要性を痛感しました。また、マイクを使うとしても、ただ大きく増幅すればいいというものではなくて、ハウリングの問題であったり、セッティングの位置で意図した音量や音色とは違ってしまうという問題をどう解決するのも悩みどころです。

——なるほど、クラシックギタリストの立場からしても、ナイロン弦をつま弾くギター本来の生音をそのまま増幅できるエレガットに魅力があるのですね。

猪居：そうなんです。だから、エレキギターや他のジャンルとのセッションはもちろん、室内楽や協奏曲という場面でも「良質なクラシックギターとしてのエレガット」はこれから求められる可能性があるんじゃないかと思っています。やはり、私たちクラシックギタリストとしては、クラシックギター本来の魅力は生音にありますので、現代の多様なニーズに応えつつも、その魅力をなるべくそのままに伝えていく方法をこれからも模索したいと思っています。

——亜美さんは現在登録者9万人を越える人気ユーチューバーでもあり、クラシックギター界内外で活躍の場を広げられていますが、今後の抱負を聞かせてください。

猪居：クラシックギターの世界も以前よりもずっと、他のジャンルとのコラボレーションの機会が増え、たとえば「クラシックギタリストがエレキギターを弾く」という機会も珍しくなくなってきたと思います。私自身も、クラシックの名曲をエレキギターで演奏してみたいなと思ったり、逆にエレキやアコースティックの方がクラシックギターに強い関心を示してくださることも多いです。ですので、より多くの方にジャンルの垣根を越えてクラシックギターの魅力を伝えていく活動をこれからも続けていきたいですね。あと、私は新しいものが大好きなので、今回のエレクトリック・クラシカル・ギターのように常に「クラシックギターの新しい可能性」を開拓し続けるヤマハさんの今後の取り組みもとても楽しみです。

——本日は素晴らしい演奏と貴重なお話をありがとうございました。



●ヤマハはピックアップを搭載したエレクトリック・クラシカル・ギター CGX122MS 及び CGX122MC を 2022 年 10 月に発売した。「クラシックギター・プレイヤーが弾きやすいエレガット」がコンセプトで、クラシックギター奏者がコンサートホールや野外で弾く際に、違和感なく演奏できるノン・カッタウェイのギター。また、入門者向けの楽器としても適しており、生音でのレッスンはもとより、PA 等に繋いで家庭においても舞台においても楽しむことができるように配慮されている。表面板に松（スプルース）を使用したモデル（CGX122MS）と、杉（シダー）を使用したモデル（CGX122MC）があり、共に単板。搭載されているアンダーサドル型ピックアップとコントロール「SYSTEM-73」は、ナイロン弦サウンドをありのままに表現することが意図されており、ボディの鳴りを損なうことがない。また付属品として、ネック反り調整用の六角レンチが付いている。

電源：アルカリ単三電池（LR6）× 2 本使用、電源寿命 約 180 時間（使用条件により異なる）
チューナー：クロマチック・チューナー内蔵。
付属品：六角レンチ（ネック反り調整用）
希望小売価格：56,100 円（本体 51,000 円 + 税 10%）



単 3 電池挿入部分



外部アンプ接続用のジャック

DATA	
サイズ	
重量 ※電池装着時	1,665g（杉単板）、1600g（松単板）
弦長	650mm
全長（ストラップピン含む）	1,005mm
胴長	490mm
材質	
裏・横板	ナトー
ネック	ナトー
指板	ウォルナット
糸巻	1157N（クローム）
塗装	艶消し
ピックアップ&コントロール	System-73



横板に装着されているコントローラー。
左上のツマミは出力ボリューム、その下はチューナー表示、
右上の 3 つのツマミで低音域、中音域、高音域の増減をする。
右下のスライドで中音域の中心周波数を 80 Hz ～ 5 kHz の間で設定する。



猪居亜美 エレクトリック・クラシカル・ギター試奏動画

演奏曲：ラグリマ（タレガ）

会場：ヤマハ銀座店 2022/11/4

CGX122MS（表板松）生音
<https://youtu.be/KpzfiDVDgXQ>



CGX122MS（表板松）アンプ出力
<https://youtu.be/vzYo76bzpH0>



CGX122MC（表板杉）生音
<https://youtu.be/o5EtqhOL9Zg>



CGX122MC（表板杉）アンプ出力
<https://youtu.be/KvREbtOmBRI>

